



けやきっ子

東根市立東根小学校
学校だより

No. 2

平成26年6月25日発行

5年生宿泊体験学習

たくましさを増した子どもたち

6月17日(火)から19日(木)までの3日間、5年生が朝日少年自然の家で宿泊体験学習を行いました。

テント設営、自然の冒険、ウォークラリー、ドラム缶風呂、キャンプファイヤー、テント撤収、奉仕活動と、充実した3日間を過ごしました。

本校のプログラムの特色は、2つです。1つ目は、すべてテント泊であること。2つ目は、3日間の食事7食のうち5食を野外炊飯で行うことです(たいていは2食程度)。これらは、子どもたちにとっても引率する職員にとっても大変厳しく、他校ではなかなか踏み切れないことです。しかし、苦労が大きい分、子どもたちが得るものも大きいのです。



学び直しをしながら課題を解決する！

私は、1日目と2日目の2日間、子どもたちと活動しながら、うまくいかず何度もやり直し考えながら、奮闘する様子を見てきました。そして、その中で知恵を出し合い、力を合わせ、次第にできるようになり、自信とたくましさを増していく子どもたちの姿を目の当たりにしました。

1日目の夕食は、カレーライスです。慣れない包丁に四苦八苦するも、ご飯とカレーの具はなんとか準備が終わりました。でも、なかなか火が着きません。新聞紙で薪を巻いたり、新聞紙と平らに並べた薪をはさんでミルフィーユを作ったり、キャンプファイヤーよろしく太い薪で立派な井げたを組んだり……。燃え上がるのは新聞紙ばかり。3日間使う1箱のマッチがみるみる減っていきます。最後の班は、点火に2時間近くかかってしまいました。

後片付けにも時間がかかります。流し場には食器や鍋のふた、スプーンが残っています。足りないものもあります。声をかけても、自分たちの班は関係ないと全く動きません。食事係が集められます。班長も集められます。それでもなかなか見つからず時間だけが過ぎていきます。

それが、2日目の朝食、昼食となると、手際が違います。準備しながら、同時に片づけをする姿も見られるようになりました。点火は簡単にはいきませんが、時間が短くなってきました。こつを身に付けた“名人”も出てきました。

これこそが学び直しをしながら、子ども自身が課題を解決する姿です。考えるヒントを出しても手を出さず、じっと待った成果です。

5年生迎えてくれた大けやきは、「東根小学校では、こうして高学年の子どもを育てきたんじゃ。自信とたくましさをも身に付けた5年生の明日からが楽しみじゃ。」と目を細めているようでした。

準備等にご協力いただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。



古城が丘 点描

第38回全国育樹祭が、
今年10月12日(日)金山
町にある「山形県遊学の森」

で開催されます。

本校のみどりの少年団も参加し、大けやきの苗の贈呈という大役を果たすことになっています。その時の苗を、大けやきの北側で、数本育てています。

本番まで、県のみどり自然課や森林研究研修センターの指導もいただきながら、大切に育てていきたいと思えます。

学校にお出での際には、是非ご覧ください。

